

## 性感染症サーベイランスの運営と活用に関するアンケート結果 H28年1月実施

平成28年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」(主任研究者:荒川創一)

分担研究性感染症のサーベイランスの充実強化に関する研究 中瀬克己(岡山大学医療教育総合開発センター)

実施者

### 各設問に対する回答の具体的内容

#### ＜サーベイランス情報の活用と啓発について＞

1. 近年の梅毒の増加を踏まえ、妊娠可能期の女性向けに梅毒の啓発をH28年に新たに行いましたか

(2)以前から行っている

- ・HP掲載(感染症発生動向速報(感染症情報センター)、健康安全研究センター)
- ・紙媒体での掲示・配布:ポスター(厚生労働省作成)、ちらし(東京都のもの)、パンフレット(梅毒を含む性感染症に関するもの)、リーフレット(STD専門医療機関へ、厚生労働省作成の性感染症予防啓発リーフレット)、衛研だより(衛生研究所)、市政だより、感染症週報・月報
- ・パネル展示による啓発(世界エイズと併せて)
- ・FMラジオにて啓発活動:最近の発生状況、感染経路、感染予防に関する知識及び感染後の症状等の情報発信
- ・HIV検査受検者に啓発物を配るなどして梅毒検査も勧めたりする保健所もある
- ・中学・高校で講演会(感染症の予防について)、性感染症教育、思春期教室、健康教育
- ・大学等への周知依頼
- ・大学祭での啓発(HIV、STIの啓発と一緒に)
- ・協働している学生サークルによるSTI啓発
- ・研修会での情報提供

(3)新たに行った

- ・HPへの掲載・啓発
- ・メルマガで広報
- ・ツイッター・フェイスブックへの掲載
- ・紙媒体での掲示・配布:ポスター(10～20代向けのもの、厚生労働省作成のセーラームーンのもの)、ちらし(婚姻届を提出する人に向けて、厚生労働省作成、梅毒・HIV検査啓発チラシ(A4名刺サイズカード)、パンフレット(梅毒を含む性感染症に関するもの、コンドーム使用啓発)、リーフレット(厚生労働省作成、国のリーフレット「女子の梅毒増加中」)、女性向け・10～20代男女向け情報誌に掲載、保健所発行の情報誌に情報掲載
- ・区市町村の母子保健事業担当者連絡会にて資料を用いて情報提供及び注意喚起
- ・夜間検査への梅毒検査追加に伴う広報
- ・HIV休日即日検査への梅毒即日検査項目追加に伴う広報
- ・記者クラブ宛て資料提供
- ・産婦人科へ周知
- ・区市町村の母子保健事業担当者連絡会にて資料を用いて情報提供及び注意喚起
- ・世界エイズデーに併せてコンドームを配布
- ・大学・短大・各種専門学校、関係学校等への通知
- ・中学・高校での性教育(梅毒の項目を追加)、梅毒増加に伴う予防と検査のすすめ
- ・啓発ティッシュを大学に配布依頼
- ・看護学生向けに性感染症予防の健康講座を開催
- ・両親学級、母子健診会場での周知

2. 近年の梅毒の増加を踏まえ、MSM等上記外の対象向けに梅毒の啓発をH28年に新たに行いましたか

(2)新たに行った

- ・HPによる啓発
- ・フェイスブックにて動向・予防法・市の検査案内
- ・LINEの市のページへの梅毒予防啓発のページ作成・掲載
- ・紙媒体での掲示・配布:パンフレット(HIV性感染症検査にて独自に作成)、リーフレット(HIV検査・予防月間、厚生労働省作成)、ポスター(MSM向けのもの)、ちらし(MSM向けのもの、厚生労働省作成のもの、成人式で配布されるもの)
- ・一般向け、年末年始にガード下ギャラリーにてコラボポスターによるSTD啓発展示
- ・一般市民に向けた健康づくりイベントでのパンフレット配布
- ・妊娠届受理時に性感染症予防のチラシを配布
- ・性の健康週間前後に保健所来所者を対象としてポスター掲示
- ・大学の新入生オリエンテーションでの出前講座、大学祭でのパンフレットの配布
- ・大学・専門学校やカラオケボックス協会・薬剤師会へポスターを配付し掲示を依頼
- ・学生、性風俗業界にチラシ配布
- ・高校・大学に梅毒・性感染症に関するチラシを配布
- ・児相
- ・学校教育
- ・記者クラブ宛て資料提供
- ・ラジオ広報
- ・MSM向け商業施設等(ゲイバー)にポスター・ちらしを配布、検査の周知広報
- ・MSM向けバナー広告実施
- ・MSMイベント検査のガイドンスでの啓発
- ・セクシャルマイノリティ等が参加したHIV予防講習会にて情報提供
- ・平成29年新成人、成人式(はたちのつどい)にクイズを行い、答え合せて梅毒の説明を行った
- ・パチンコ店等にリーフレットの配置
- ・受検しやすいよう梅毒検査日を増設

3. 梅毒発生届けには性的接触に「経口」の項があります。経口感染について情報提供(還元)や事業や政策に活用したことはありますか

## (2)還元/活用した

- ・HP等、ウェブサイトを通じて記載・啓発
- ・紙媒体での掲示・配布・リーフレット、ちらし、新聞取材時に情報提供(記事として採用)、相談用資料
- ・啓発キャンペーン、予防キャンペーンで活用
- ・検査(保健所検査、梅毒検査、特定感染症検査)の実施時・カウンセリング時に説明・問診・予防指導等の情報提供
- ・発生届の概要は全例を区週報に掲載し、関係機関に周知
- ・高校の性感染症教育、健康教育にて説明
- ・発生届の概要は全例を区週報に掲載し、関係機関に周知
- ・エイズ研修会等での情報提供
- ・学校職員等対象の研修会において啓発を実施
- ・HIV・エイズの研修時や教育委員会の研修時に啓発
- ・面接時に感染経路について情報提供
- ・特科講公衆浴場組合への啓発を企画中
- ・プレ及びポストカウンセリングで使用するツールに経口感染することも盛り込んでいる
- ・担当者会議で各HC支所担当者へ伝え、保健指導に活用することを依頼

## (3)その他

- ・週報で梅毒を特集として掲載。「経口」の数値は出していないが感染経路としてはあることを県民等へ周知
- ・以前から経口感染があることは検査時及び啓発時に伝えており、変更していない

## 3-2. 分析した内容を情報提供(還元)や事業や政策に活用したことはありますか

## (2)還元/活用した

- ・HPへの掲載
- ・広報媒体への掲載
- ・HIV・STIの動向のチラシの発行、エイズ・STI対策推進協議会資料として使用
- ・月に1回記者クラブに提供する資料に梅毒の報告数が増加している旨記載
- ・報道機関を通じての注意喚起
- ・関係機関への注意喚起
- ・健康教育での情報提供
- ・中学校校長会での現状説明と注意喚起
- ・市民公開講座
- ・市や県、国内の性感染症報告状況の推移を健康教育の資料に活用
- ・通常検査・相談事業での梅毒検査実施根拠として活用
- ・特定感染症検査・相談事業での問診・指導時啓発
- ・医師会地域保健事業部会
- ・担当者会議で各HC支所担当者へ伝える

## (3)その他

- ・性感染症予防啓発のカードを作成し、大学・専門学校等へ配布
- ・学会で発表

## 4. 近隣自治体の公開情報を利用したことがありますか

## (2)ある

- ・道と札幌市において互いに公開し情報を取得している
- ・千葉市(政令市)の情報を利用し、県全体の動向として確認している
- ・年齢階級別データの確認

## 4-2. 近隣自治体と、公開情報以外に、情報を共有したことはありますか

## (2)ある

- ・近隣県・感染症情報センター・感染症担当者連絡会等の会議で情報交換
- ・近隣自治体含む全国19指定都市に梅毒検査の方法や受検者数等を照会した
- ・新たに梅毒検査を実施する自治体から、当市の検査体制や使用している資料について照会があり、情報提供した
- ・月1回、岐阜県感染症サーベイランス解析評価小委員会に出席し、県域の発生動向について情報共有
- ・性感染症の周知に関して、HIV検査数や実施方法に関して
- ・電話連絡で全数報告で推定感染地域として神戸の地域があがっていることの情報提供を受けた
- ・発生動向調査にて把握した情報について周辺自治体と情報共有
- ・府内保健所設置市と共同で感染症発生動向調査事業報告書(年報)を作成し共有
- ・電話、届出状況
- ・発生届けに無い項目について、各自治体が知っている情報

## 4-3. 前問の自治体との情報共有においてNESIDを利用しましたか、それ以外の方法でしたか

## (1)NESID

- ・発生状況についてはNESIDを利用した
- ・電話

## (2)他

- ・電子メールにより照会し、その回答を得た
- ・電話連絡
- ・口頭連絡
- ・会議・連絡会等の場で情報交換、検討課題として提起、質疑応答
- ・HIVの県主催の担当者会議

- ・岐阜県感染症情報センターがNESIDにより統計を行い、その集計結果の情報提供を受けている

#### 5. 周辺等の他自治体、対策を行うNPO、専門家(大学)等と梅毒、HIV等に関して連携したことがありますか

(選択の記載無し)

- ・SHIP、HIV、検査勧奨、パンフレット配布依頼

#### (2) 動向について情報交換協議した

- ・エイズ治療拠点病院等連絡会、梅毒
- ・毎年行われるエイズ対策会議にて、梅毒の発生状況を報告
- ・エイズ対策連絡協議会において、泌尿器科医師を招き、佐賀大学医学部附属病院、県医師会、歯科医師会、薬剤師会、エイズ拠点・協力病院、保健所、衛星薬局センターと梅毒について情報共有を行った
- ・エイズ・性感染症実務担当者会議(岡山県主催)、県内発生動向の情報共有
- ・HIVに関しては、エイズ対策推進協議会において協議および情報交換を行った
- ・県主催のエイズ・性感染症専門部会において、大学教授や医師会代表、学校関係者及びPTA関係者と昨年度の長崎県のエイズ・性感染症対策の報告や当年度の計画について情報交換を行った
- ・HIV・他STDについて専門家・教育関係者・保健所職員を交えた連絡会を行った
- ・SHIP、次年度に向けての連携相談、職員向け研修講師依頼
- ・感染症動向調査企画委員会(医科大学医師、医師会等、今後の梅毒予防対策の方針について協議した
- ・感染症発生動向調査委員会等で周辺自治体とHIV等の性感染症についても情報交換を行った
- ・岐阜県、岐阜大学医学部附属病院生体支援センター

#### (3) 対策について情報交換協議した

- ・年に1回、エイズ対策推進協議会を開催し、対策について協議している
- ・HIV：NPO法人aktaに委託し、県HIV検査に関するバナー広告をMSM向けホームページに掲載しており、検査時のアンケート情報(居住地・性別・検査情報を知った媒体など)を共有し効果的な検査情報周知を検討している
- ・HIVについては、毎年、医師会、歯科医師会、看護協会、拠点病院及びNGO団体等からなる対策連絡協議会を設け、沖縄県が行うHIV対策について助言等を頂いている
- ・新潟県・市エイズ対策推進協議会、エイズ拠点病院会議で協議予定、新潟県感染症サーベイランス委員会
- ・NPO・専門家・他部局・医療機関/HIV/中高生向けパンフレットを作成、指針を作成
- ・年1回、県内保健所設置市の担当者と県担当者及び県内エイズ拠点病院の医師が集い、HIVを中心とする性感染症について情報交換、対策を協議している
- ・県や近隣市と梅毒やHIVの発生動向を協議しハイリスク層に向けた啓発方法について検討した
- ・発生動向調査にて把握した情報について周辺自治体と情報共有を行った
- ・大学・エイズ診療拠点病院・NPO等学識経験者や関係団体とHIV/エイズに関して懇話会を開催
- ・MSMのNPOにHIV/エイズに関する普及啓発事業を委託
- ・NPO:akta、疾患名:HIV・梅毒・性感染症・その他、HIV等の状況について情報共有・MSM当事者と職員(保健所保健師)間で意見交換
- ・新宿・みなと保健所と保健所におけるHIV検査の体制について情報交換
- ・プレイス東京、慈恵医大、国際医療センター連携会議出席

#### (2)(3) 共通

- ・協議会等で、専門家(大学教授等)と動向・対策について協議(梅毒/HIV)、HIVについてはNGOとも対策について協議
- ・感染症対策4県担当者会議(栃木県、茨城県、群馬県、長野県)
- ・エイズ治療拠点病院、東海4県8市:HIV、梅毒等:自治体とは対策等について情報共有を行い、大学や病院とは対策について意見交換を行った
- ・近畿府県とエイズ中核拠点病院連携打ち合わせ会議等でHIVや梅毒について動向や各府県の対策について情報交換している
- ・ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会にて、該当地方の自治体や病院の対策や動向について情報交換した
- ・エイズ診療ネットワーク会議において、県内のエイズ診療拠点病院等と情報交換・協議を行った
- ・仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会にて、委員(医師、大学教授、教育関係者NPO等)当市のHIV・STI対策について情報共有・協議した
- ・都が集約・分析している情報(HIV・梅毒について)を共有、都の研修に参加
- ・医療機関やNPO等、HIV/AIDS及び梅毒、HIV/AIDS関係機関ネットワーク連絡会や梅毒対策有識者会議にて動向や対策について情報交換協議した
- ・都主催の感染症対策担当者連絡会(特別区・中核市、政令市保健所)

#### (4) 共同して対策を行った

- ・LSA(IWATE:生と性及びエイズ教育を考える会)、ZEL(仙台市内、MSM団体)。LSAについてはHIV予防対策、ZELについてはHIV・性感染症全般
- ・NPO法人akta及びNPO法人ふれいす東京、HIV、MSM向けのバナー広告、MSM向け特設検査の開催、MSM当事者を交えたカウンセリング研修等
- ・NPO団体と共同で研修会を実施(HIV)、NPO団体の協力を得て検査を実施(HIV、梅毒、B型肝炎)
- ・福井大学医学部附属病院、エイズ、研修会、HIV抗体検査の実施
- ・HIV対策推進協議会(3月)、無料HIV検査会(11月)
- ・和歌山市、臨床検査技師会、ボランティア等と連携してHIV・エイズの啓発事業を実施
- ・大学・専門学校等と協力したエイズカフェ開催、大学祭での出張エイズ検査実施、エイズ研修会でMSM団体から講師招聘
- ・市で作成した性感染症(梅毒、HIV等)予防に関するリーフレットを、大学やNPO、医療機関等に配布し、保健指導等の際に活用していただいている
- ・NPOと連携し、MSM向けにHIV、梅毒、B型肝炎の検査を実施
- ・NPO及びクリニックと連携してMSM対象のHIV即日検査を行った
- ・NPO法人にHIV啓発及び検査を委託
- ・HIV啓発イベント時、大学生にもボランティアとして協力いただき、HIVに関する正しい情報提供、共同してイベントを行った
- ・県やNPO等とHIV検査啓発イベントを実施
- ・協働団体:Love Act Fukuoka、疾患名:HIV等、連携内容:LGBTイベントにおける啓発ブースの出展、市で実施している抗体検査の広報活動
- ・熊本市エイズ総合対策推進会議(医療、教育、企業、ボランティアグループ等20団体の委員から成る外部会議)／HIV、STD／施策等について協議
- ・熊本大学医学部附属病院／HIV／情報交換、検査陽性時の受診協力
- ・Safety Blanket(MSM当事者グループ)／HIV、STD／情報交換、MSM向け啓発物作製、勉強会企画実施等
- ・くまびあ(熊本大学ピアカウンセリングサークル)／HIV、STD／高校・大学でのキャンペーンにて生徒・学生に対しピアエデュケーションを実施、啓発物作製、情報交換など
- ・県内の保健所等／HIV、STD／情報交換・助言等、啓発資料の貸出し
- ・community center ZELの協力を得て、HIV検査のPRをおこなった(検査日程をチラシに掲載し、MSM向け商業施設で周知してもらう)

- ・コミュニティーセンターZELと共同して、MSM向けのHIV検査・梅毒検査の受診勧奨のポスター・チラシを作成・配付した
- ・文星芸術大学・不二ラテックス、HIV/エイズ、青少年のエイズ予防普及啓発事業としてコンドームのパッケージ等を作成し配布
- ・市内のMSM向け商業施設に対しHIV・性感染症検査に関する啓発資料を配布する事業をNPOに委託して実施
- ・埼玉県疾病対策課と。県が作ったポスターを関係機関に周知した。県が実施する即日検査に市HCの性感染症検査のPRを行った
- ・研修会等を近隣自治体の教育現場の職員に向けて行った
- ・市内の大学にて啓発グッズの配布を実施
- ・エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市)でHIV/エイズに関して啓発を実施
- ・NPO法人なら思春期研究会と協働し、市内高校部文化祭でのエイズ教育を実施
- ・大分県/HIV/世界エイズデーキャンペーン
- ・Pinkdot Okinawa(LGBTイベント那覇市共催)にてHIV等検査の普及啓発
- ・区内・医療系大学学園祭で保健所検査、性感染症普及の掲示を行った
- ・HIV即日検査・相談事業をMSM等当事者団体のNPO法人に委託実施。個別相談についても事業連携している

## (2)(3)(4)共通

- ・毎年エイズ予防に関する活動団体と連携し、シンポジウム及びHIV検査等のイベントを実施
- ・HIVと人権・情報センターから講師を派遣し、エイズ予防講演会(中学3年生を対象にHIV・エイズの基礎知識について)を開催
- ・エイズ診療拠点病院である群馬大学医学部附属病院の担当医とはHIV等の対策について連携して事業を実施
- ・AIDS文化フォーラムにおいて、NPOや専門家と協力し、講演や臨時検査を実施した。また、エイズデー街頭啓発において、関係機関とHIV及び性感染症について啓発を行った。京都市HIV感染症対策有識者会議では、委員とともに梅毒啓発方法について検討中である
- ・エイズ対策推進協議会及びエイズ治療拠点病院等連絡会議における専門家・保健所担当者等との情報交換・協議、新潟大学病院と共同してエイズデーにおける啓発
- ・四国4県連携施策個別施策層へのエイズ予防対策事業
- ・エイズ対策政策研究事業 男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究 研究代表者 市川誠一
- ・人間総合科学大学 市川誠一先生、川崎医科大学 和田秀徳先生、MSM啓発団体、岡山市、倉敷市
- ・NPO及び大阪医療センター(HIVのブロック拠点医療機関)、HIV/AIDS、個別事例の紹介や普及啓発事業について連携して実施

## 6.感染症発生動向調査委員会から梅毒や性感染症に関して提案を受けたことがありますか

## (2)情報活用や還元について受けた

- ・STDについては月報掲載内容を相談し、条項に応じた表現などの提案を受けている
- ・梅毒の検査を実施した理由
- ・患者の職種は把握可能か

## (3)対策について受けた

- ・梅毒の感染源について詳細な調査をした方がよいと提案あり
- ・梅毒の早期診断と早期治療に繋げるため、関係機関への周知・研修の必要性
- ・梅毒とエイズとの関連性の把握、梅毒の感染経路の把握について
- ・梅毒は他疾患と類似した症状が見られることから、受診、診断に向けた啓発が必要であること
- ・青少年への性感染症に関する啓発について
- ・発見のためには、医師へのさらなる教育が必要。啓発には、行政のより積極的なアプローチが必要

## (2)(3)共通

- ・梅毒、性風俗産業従事者への啓発

## (4)その他について

- ・梅毒増加の原因について

## 7.性感染症の発生動向の「個人情報を含まない集計済み情報」を活用した分析を自治体以外の組織や個人が行い公表する事は、どのような手続きを経た場合可能と考えますか

## (3)IDSCが公開手順を定め、研究者はその都度自治体の許可を得て可

- ・エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市)でMSM向けにHIV・梅毒検査を実施

## (6)その他

- ・分布図マップがあると便利

## 8.指針統合により、動向把握/還元、委員会の運営、財政的な観点などから両疾患対策の推進において利点や懸念がありますか

## (1)利点を感じる

- ・共通の感染経路も想定できることから予防・まん延防止においてはメリットがある。また、HIVやHBV、その他の性感染症と併せて論じることで、AIDSの持つスティグマが軽減されればと期待する
- ・性感染症とAIDSは、感染経路、発生の予防法、まん延防止対策等において関連が深く、指針統合により、より連携した対策をとることができるようになる
- ・今まではエイズのための委員会を行っていたが、性感染症全体の中での議論となるため
- ・AIDSに対する偏見の軽減
- ・担当者がもれなく確認できる
- ・主な感染経路は同じであり、対策をとりやすいと感じられる
- ・統一的な対策を実施しやすくなる
- ・統一され、分りやすくなることを期待
- ・注意喚起がしやすくなる
- ・指針が分かれている利点を特に感じないため
- ・対策を講じる、対象の分析が可能になる

## (2)懸念を感じる

- ・感染経路、性別、拠点病院等の医療体制、針刺し対応等、共通点が少ないため
- ・新規事業を開設する場合の予算措置において十分な裏づけとなる内容を希望すること
- ・個人情報を守られない危険性がある
- ・予算と人員配置

## (3)利点、懸念共に感じる

- ・対象ハイリスクグループが同じであるので、予防啓発を重点的に効率よくできるが、予算については、事業がまとまることで確保する額が減少する可能性がある
- ・共通した対策が重要であり、その点では利点を感じるが、性感染症にどこまでが含まれるかによっては、協議会の運営等に懸念を感じる
- ・総合的な対策が可能な一方で、検査体制の構築、人的配置等に懸念がある
- ・AIDS対策に特化した予算の削減
- ・利点として、STDとしてつながりがあるものなので、つながりをもった対策ができるのではないかと。エイズ予防指針をもとに、HIV対策・事業等を行ってきたため、動向把握、還元等に懸念を感じる
- ・AIDSが死病でなくなったことから性感染症全体として対策を考えた方がよいと思われるが、拠点病院制度と行政検査の匿名・無料原則が堅持されるのか。政策の後退が懸念される

## (4)判断できない

- ・指針の統合によって、全国レベルの(自治体の枠を超えた)対策の展開ができるようになればよいと考えます

## &lt;積極的疫学調査について&gt;

9-2.問い合わせた対象／内容は以下のどれに当たりますか

## (6)その他

- ・治療
- ・今後の治療計画
- ・症状経過
- ・本人への指導内容確認
- ・患者への結果説明
- ・パートナーへの告知、受診勧奨
- ・特定のパートナーの有無
- ・パートナー健診
- ・HIV検査の実施の有無、結果
- ・HIV検査の受診までの経過聞き取り
- ・無症候の場合、検査に至った経緯
- ・届出があれば医療機関へ状況を確認するようにしている
- ・届出基準等についての確認
- ・発生届の内容確認
- ・他の性感染症(HIV等)検査実施の状況確認と陽性時の届出依頼(届出対象疾患の場合)
- ・他STD検査実施の有無
- ・性風俗の利用又は従事など
- ・性、風俗関係の従事者だったため、提出後に指導の有無を確認したことが1件のみある
- ・居住地域
- ・性別、年齢
- ・同性愛者かであるか
- ・感染源と思われる対象
- ・誰に対して周知・検査すると予防できるのか

10.梅毒発生届けの情報不足が動向の分析/還元や対策において支障となったことがありますか

## (1)ない

- ・あった方がよりよい分析につながると思う
- ・本市独自の分析や対策の予定は無いものの、質問者が指摘している項目が欠落していることは、国レベルでの検討には欠点となっていると推察される

## (2)ある

- ・居住地域(住所)  
居住地域が不明なため追加動向調査が不可能  
感染源や居住エリアの分析が困難  
居住地域がわかると市内の発生動向がわかる  
追加聞き取りで市外居住者を把握しているが、不確かさのため還元できていない
- ・発生地域
- ・活動圏
- ・職業
- ・国籍  
アウトブレイクの対象が特定できない
- ・妊婦  
妊娠の有無が分かれば必要な場合に母子ともにその後のフォローが可能となる  
産婦とその子
- ・MSM  
MSMか妊婦など項目があると動向を分析しやすい(電話で確認している状況)
- ・性感染症の既往歴
- ・性風俗への従事歴・利用歴
- ・感染源
- ・上記の記載項目がないので、その都度職員が診察した医師に聞き取りを行うが、医師も上記内容を把握していない事がしばしばあり、かつ感染経路の把握や予防啓発対象の絞り込みに難渋する
- ・不足情報は病院へ聞き取りをするが把握していないことも多い
- ・医療機関にその都度確認している
- ・感染地域が区内とされた場合にはその内容を主治医確認
- ・Drのコメント以外では確認しないと知れない

- ・増加の原因を把握するため、職業など、患者背景がわかる情報が欲しい
- ・周知のターゲットをしぼれない
- ・先天梅毒のリスク等の把握ができない。
- ・具体的な分析データが得られないため、新規事業の立案が難しい等
- ・動向分析や対策を講じる際に支障がある

#### 10-2.梅毒発生届けに項目の追加や変更を希望しますか

##### (1)希望する

- ・居住地域  
感染地域に偏りがあるようなので対策の判断材料となりうる
- ・国籍
- ・職業
- ・妊婦または妊娠の有無(本人・パートナー)、妊娠している場合は週数、居住地、治療の有無  
無症状病原体保有者の場合、どのような経緯で検査に至ったのか把握できる  
先天梅毒の場合に母親の届出の有無
- ・乳児かどうか
- ・MSM
- ・妊婦であるか・MSMか、の把握により啓発に役立てる可能性がある
- ・妊婦かMSM力など項目があると動向を分析しやすい
- ・性風俗産業の利用または従事
- ・重複感染の有無と疾患名
- ・推定感染場所
- ・感染時期の特定
- ・伝播経路について
- ・感染源、感染原因
- ・性感染症の既往歴
- ・受診の契機
- ・定性検査・定量検査か
- ・パートナー検査の有無
- ・活動圏
- ・氏名
- ・希少例(特記事項)
- ・発生届けに必要な検査名の種類
- ・届出基準(届出基準に満たないが要治療の例があるため)
- ・届出基準に規定されている検査方法を、医療現場で実施されている方法に合わせて欲しい
- ・HIV/AIDSの届出と同様の項目
- ・増加の原因を把握するため、職業など、患者背景がわかる情報が欲しい

##### (無回答)

- ・変更するのであれば性感染症すべてについて検討すべきではないか

#### 11.梅毒以外の性行為による感染症(HIV.B/A型肝炎,赤痢、アメーバ赤痢等)について記載事項の確認や追加情報を得るために医療機関へ問い合わせた、あるいは問い合わせる様保健所に依頼または指示した事がありますか

##### (2)確認はある

- ・HIV  
感染の有無について  
HIV抗体検査の実施の有無  
検査法についての確認  
確認検査の内容  
受診勧奨の有無  
診断日の確認  
HIV感染経路に輸血が選択されていたことがあり、状況を確認した  
アメーバ赤痢の届出で、HIV検査の実施の有無を確認  
異なる病院からの同時届出について、別件が重複していないかの確認  
療養等の支援につなげる必要があるか  
HIV感染か、エイズ発症か(HIV感染なのにエイズで届けが出された)
- ・B型肝炎
- ・A型肝炎  
診断基準や感染経路について
- ・赤痢における受診までの経過と治療内容、今後の検査のスケジュール
- ・アメーバ赤痢  
診断までの経緯、性的接触の内容  
診断基準や感染経路について  
診断、届出基準、経過(無症状だったため)
- ・診断方法
- ・居住地域
- ・妊娠の有無
- ・特定のパートナーの有無
- ・発見に至った経緯

- ・感染経路について
- ・他の感染症検査の有無と結果
- ・不明点の確認
- ・各疾患について記載事項の確認
- ・記入漏れ、矛盾点等について確認
- ・届出基準についての確認
- ・届出があれば医療機関へ状況を確認するようにしている
- ・各保健所において必要と判断した場合に確認している

## (3)追加はある

- ・HIV、B・C型肝炎、クラミジアなどの他の検査の有無と結果など

## (4)確認/追加とにもある

- ・HIV:
  - 検査の有無
  - 感染場所や接触者の状況等について照会した
  - 受検、受診動機
  - HIVと同時に届出があった際に同一患者なのか確認
  - パートナー検査の有無、感染経路の詳細(MSM、感染推定場所等)、病状(CD4値など)
  - 今後の治療について、感染経路、周囲への告知について
  - 診断までの経過
  - 感染者の性的指向
  - 医療紹介先
- ・A型肝炎:
  - 感染場所や接触者の状況等について照会した
- ・B型肝炎:
  - 診断までの経過
- ・C型肝炎感染の有無
- ・アメーバ赤痢:
  - 自覚症状がなく、大腸粘膜検査を実施している場合に検査に至った経緯を確認
  - 診断までの経過
  - 患者の受診理由、検出の経緯
- ・赤痢
  - 患者の合併症(HIV等)について
- ・特定のパートナーの有無
- ・パートナーからの感染か
  - ・感染原因
  - ・感染経路
  - ・診断方法
  - ・今後の治療計画
  - ・本人への指導内容確認
- ・海外渡航歴
- ・性産業従事者か(患者が女性の場合)
- ・陽性時の届出依頼(届出対象疾患の場合)
- ・届出以外の感染症(疾患、検査)の有無、治療状況
- ・その他性行為による感染症の検査状況
- ・全疾患において必要に応じて行っている
- ・上記すべての疾患において可能な範囲で追加情報を得ている

## ＜集団発生・アウトブレイクと関連調査について＞

## 12.貴自治体では梅毒報告の増加について検討されましたか

## (3)増加している

- ・H27.1月～12月 14件(男:12 女:2)H28.1月～12月 19件(男:16 女:3)

## 13.性行為による感染症の集団発生や通常以上の増加及びその疑いを平成28年1月から12月末までの間把握したことがありますか

## (3)把握した

- ・梅毒
- ・A型肝炎
- ・B型肝炎
- ・HIV感染症

## 13-2.その際、何らかの対応を行いましたか

## (2)調査(感染経路等)、(3)分析 共通

- ・検体の遺伝子検査

## (4)啓発や情報提供

- ・HP等のウェブサイト上での情報提供
- ・ポスターの掲示
- ・リーフレット配布(研修時、学校等)
- ・チラシの作成・設置・配布(HIV受検者、健康教育(専門学校)、成人式等)
- ・保健所情報誌、メールマガジンにより、市民や医療機関へ情報提供

- ・県内全医療機関に対応を依頼
  - ・医療機関との会議の際に情報提供
  - ・市内産婦人科への梅毒発生届け出のお願い
  - ・ラジオでの啓発
  - ・中学校、高校、大学、専門学校等への情報提供
  - ・衛生教育、健康教育を通じての啓発
  - ・HIV即日検査時に梅毒即日検査(TP抗体)(通常検査(RPR,TPHA))
  - ・上半期及び世界エイズデー近辺での記者発表の際に、HIV感染症が増加傾向であることについて広く周知を行った
  - ・エイズ感染症講演会での啓発
  - ・啓発用ツールの配布
  - ・啓発の強化
  - ・啓発先の検討
  - ・検査相談時の受検勧奨、啓発
- (2)(3)(4)共通
- ・喫食・行動調査
  - ・食料品店調査委
  - ・飲料水調査
  - ・接触者検診
  - ・A型肝炎対策検討会議の開催
  - ・各市町の協力を得て広報
  - ・調査のための有識者会議を開催
- (3)(4)共通
- ・連絡会議等での情報提供
- (5)前項以外の介入
- ・中核市からの相談で把握した案件。県としては、通常どおり啓発に努めた
  - ・分析途中
- (4)(5)共通
- ・保健所での梅毒検査の実施

#### ＜パートナー対応、検査について＞

##### 14-3.勧奨の際に資料を用いていますか

- (1)はい(②HIV)
- ・ひよっこクラブ(NPO法人CHARM) : <http://www.hiyokkoclub.com/index.html>
  - ・陽性者用の冊子(都作成)
  - ・HIV陽性と判明した場合
- (1)はい(③STD・HIV両方)
- ・性感染症ってどんな病気？(東京都福祉保健局発行) : <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.files/sti.pdf>
  - ・たんぽぽ(東京都福祉保健局発行) : <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.files/tanpopo.pdf>
  - ・性感染症ハンドブック(性の健康医学財団)
  - ・HIV/エイズの基礎知識(エイズ財団発行)
  - ・市販のパンフレット
  - ・検査担当区によって異なる
- その他
- ・必要に応じて適宜パンフレット等を使用
  - ・各保健所対応
  - ・面接の状況により保健師または相談員が対応する
- 別紙有り(香川県、大阪市)

##### 14-4.勧奨の手順や要領を定めていますか

- (2)いいえ
- ・面接の状況により保健師または相談員が対応する

##### 15.保健所・特設検査等での性感染症検査において口腔での感染について検査していますか

- (1)検査していない
- ・口腔感染を考えるとクラミジア抗体検査は止められないのでは？
- (2)検査していないが実施施設を紹介している
- ・医療機関を紹介している
- (3)検査している
- ・梅毒
  - ・クラミジア
- (4)その他
- ・保健所では感染原因に差異なく希望者に対し血液検査(梅毒、HIV)を行っている
  - ・クラミジアの抗体検査を実施しているため、咽頭クラミジアも検査できる
  - ・梅毒、クラミジアについて血液検査で感染の有無を確認し、口腔感染かどうかは問診や結果返却の際にその可能性について説明をしている(咽頭擦過等検体での検査はしていない)
  - ・口腔等を介した性行為が確認された時には医療機関での検査を勧奨している
  - ・検査はしていないが症状の訴えがある場合は医療機関の受診を勧奨
  - ・性感染症検査を実施していない

## <定点医療機関について>

16.性感染症の定点医療機関を平成28年に変更しましたか

(7)その他

- ・平成28年度より性感染症定点医療機関数を人口に見合うよう増やした
- ・2年ごとに医師に選定を依頼(H28一部変更あり)
- ・大阪府医師会に選定を依頼している

16-3.定点医療機関の選定に当たって感染症発生動向調査委員会、医師会、専門家等と協議を行いましたか

(1)協議していない

- ・定点の変更等が必要になった際に協議している

(2)協議した

- ・医師会と協議
- ・定点医療機関選定の際、医師会に推薦を依頼している
- ・定点医療機関は宮城県から医師会に依頼し医師会が選定している
- ・岐阜県感染症情報センターが岐阜県医師会と協議して決定している
- ・都内定点は都から東京都医師会への委託により選定される

17.感染症発生動向調査の結果を還元する際、その特性を考慮していますか

(2)考慮したコメントにしている

- ・注意喚起の対象に偏りがなく、広く呼びかけるコメントを作成
- ・定点医療機関からの情報である旨説明を添付している
- ・地域や、他の性感染症の併発の有無等、特記している

(3)その他

- ・島根県内においては、増加傾向を示していないため、数のみ報告とし、コメントはしていません
- ・結果還元は県が実施
- ・区内の届出はその概要を全数掲載する

18.性感染症定点医療機関からの報告項目は、疾患別に性、年齢区分のみです。以下の変更、追加は動向把握の上で有用と考えますか

③その他の項目

- ・具体的な感染場所

19.貴自治体は性感染症の動向把握のための独自の取り組みを行っていますか

(2)以前から行っている

- ・非クラミジア性非淋菌性尿道炎
- ・川崎病
- ・不明発疹
- ・膣トリコモナス症
- ・皮膚科、産婦人科、泌尿器科を標榜する医療機関にクラミジア、性器ヘルペス、尖形コンジローマ、淋病の四疾患を毎月、全数報告してもらっている。
- 長崎県の事業
- ・定点以外の医療機関からの全数報告を行っている
- ・岐阜県医師会に委託し、毎年3カ月間県内全医療機関を対象に調査を実施
- ・三重県独自の様式での調査
- ・STD患者定点で病原体定点を指定

## <ご回答者と、所属について>

20.サーベイランスの運用や対策への活用に関する研修に参加しましたか

(2)自治体内での研修に参加した

- ・サーベイランス小委員会
- ・性別で見る多様性と人権

(3)外部の研修(保健医療科学院、学会、大学等)に参加した

- ・平成28年度 病原体等の包装・運搬講習会(厚生労働省)
- ・HIV／エイズ基礎研修会(公益財団法人エイズ予防財団主催)
- ・エイズ対策研修会(国立保健医療科学院)
- ・健康危機管理対策研修(感染研主催)
- ・平成28年度 感染症疫学基礎研修会(岡山大学)
- ・感染症集団発生対策研修
- ・東京都健康安全研究センター
- ・東京都の研修

(2)(3)共通

- ・エイズ対策研修

21.感染症のリスクアセスメント(流行の可能性や健康被害などの評価)に関する研修に参加しましたか

(2)自治体内での研修に参加した

- ・ICT研修会
- ・HIV各種研修会・講習会
- ・東京都 感染症担当者研修

(3)外部の研修(保健医療科学院、学会、大学等)に参加した

- ・感染症危機管理研修会(国立感染症研究所)
- ・健康危機管理対策研修等(国立感染症研究所)
- ・感染症集団発生対応研修(国立保健医療科学院)
- ・阪神地区感染症懇話会及び講演会
- ・感染症予防普及啓発推進者養成研修会(三重県主催)
- ・疫学研修会
- ・東京都の研修

(2)(3)共通

- ・エイズ対策研修

#### 備考欄

・梅毒については、7日以内の届出あることからタイムラグが生じ詳細を追うことができず、また、届出上どこで感染しているか不明であるため、推測で対策をしなければならないことから、それらを解決できる制度改正が必要であると感じております。

・集団発生・アウトブレイクと関連調査についての項目については、医療機関から、あるホットスポットがどうも感染源ではないかという情報提供があり、行政として何ができるかとの相談がありました。

県でも、検討いたしました。その情報がどこまで正確であるか、また、医療法上の問題など、特定の施設への介入の根拠がないことより、通常の啓発及び、医療機関での指導(患者に対して)をお願いする結果になりました。

・定点医療機関からの梅毒、アメーバ赤痢、HIVの届出はほとんどない状況です。妊婦健診での梅毒陽性者との動向をどう見るべきか教えて頂きたいです。

・本市の状況としては、梅毒発生届は平成28年度1件、過去5年間で3件という状況です。全国的に増加しているというサーベイランスの情報を受けて、来年度、保健所梅毒検査の実施を検討するなど対策をしていく予定です。

・発生届の多い重点地域に即日検査法による匿名・無料の検査場を常設したらよいのではないか。梅毒の即日検査法の普及。